

PSRTTYをセットして「JARL WW RTTYコンテスト」に参加しよう！

34年間続いたJARTSのRTTYコンテストを引き継ぎ、2026年からJARL主催の大会が始まります。初めての方も、PSRTTYを使って参加してみませんか。

このガイドでは、PCと無線機の準備から最初の交信、ログ提出までを順番に進めます。

大会の公式規約を確認 [➤](#)

下準備 無線機をPCにつなぐ

対象の無線機に対応したUSBドライバーをPCにインストールします。その後、無線機とPCをUSBケーブルでつなぎ、無線機の電源を入れてください。PCが無線機を認識した状態で設定を進めます。

STEP 01 PSRTTYをダウンロードする

PSRTTY公式ページを開き、上部の「ダウンロード」からZIPファイルを入手します。ZIPを展開し、展開したフォルダーをPC内の使いやすい場所に置きます。



公式ページのダウンロード入口

インストーラーは使いませんPSRTTYにインストーラーを使ったセットアップ作業はありません。ZIPを展開し、データを保存できる場所にフォルダーを置けば、そこから起動できます。

初回起動時にWindowsの確認画面が出たら公式ページから入手したファイルであることを確認し、画像の青丸にある「詳細情報」をクリックします。続いて表示される「実行」をクリックすると起動できます。Windowsの確認画面：「詳細情報」の場所

STEP 02 設定画面を開く

PSRTTYが起動したら、画面上部の「無線機」メニューから「基本・無線機・Audio設定」を選びます。



無線機メニューから設定画面を開く

STEP 03 自局情報を入力する

「基本設定」タブでプロフィール名と自局コールサインを入力します。プロフィール名には、あとで見分けやすいよう無線機名を付けるのがおすすめです。

まずはコールサインが入っていれば進められます。JCC/JCGもここで入力しておくと、あとで使う際に設定し直さずに済みます。入力したら「無線機」タブを選びます。

基本設定：プロフィール名と自局コールサイン

STEP 04 無線機を選んで接続する

「無線機」タブでお使いの無線機を選びます。

ICOM機PCにつないだ無線機が1台で、CI-Vアドレスを変更していなければ、COMポートは「自動」のままを進めます。2台以上つないでいる場合は、対象無線機のCI-Vポートを選んでください。

Yaesu機・Kenwood機使用するCOMポートを選びます。Yaesu機では、CAT用の「Enhanced」ポートを使う機種が多いです。

「接続テスト」で通信できることを確認し、続けて「接続」を押します。

無線機とCOMポートの設定

設定画面が閉じた場合「接続」を押すと、設定保存のために画面がいったん閉じることがあります。「無線機」→「基本・無線機・Audio設定」から開き直してSTEP 5へ進みます。

STEP 05 受信音の入力を設定する

「Audio IN」タブで、無線機からの音声が入力されるデバイスを選びます。受信音が届いていれば、信号がないときのノイズでも音量ゲージがわずかに反応します。

最初は音量50%で、ゲージの動きが確認できれば十分です。ノイズの振れが小さいからといって、それに合わせて音量を上げないでください。確認できたら「音量設定を保存」を押します。

初回設定時の補足初回は、一度「音量設定を保存」を押さないとゲージが反応しないことがあります。

STEP 06 送信音の出力を設定する

「Audio OUT」タブで無線機へ送信音を送る出力先を選びます。送信テストの前に、RTTYを運用できる周波数へ無線機を合わせ、LSB-D／DATA-Lなどの設定とアンテナのSWRを確認してください。約10秒間の試験音を送信するので、ほかの局の迷惑にならない周波数を選びます。

「テスト音+TX-PTT」を押し、ALCを見ながら「送信レベル」を調整します。画面でALCを確認できない場合は、無線機本体のALCメーターを見てください。ALCが振れ始める少し手前を目安にします。

調整後は「音量設定を保存」を押し、続けて画面下部の「保存」を押します。

ALCを取得できない場合は無線機本体のALCメーターを確認してください。

テスト音 + TX-PTT 待機中

もう一度押すと停止。10秒でも自動停止します。送信停止後に保存してください。

テスト音 + TX-PTTの操作部分

STEP 07 コンテスト用マクロを設定する

保存すると無線機との接続はいったん切れます。「編集」→「マクロ設定」を開き、テンプレートから「JARL World Wide RTTYコンテスト」を選んで「反映」を押します。下のマクロがコンテスト用に切り替わり、送信文は必要に応じてカスタマイズできます。

画面下の説明を読み、必要ならSENT欄のコンテストナンバーを変更します。「固定」にチェックを入れたまま「保存」を押します。

マクロ編集

×

テンプレートを選択し、[反映]を押してから[保存]してください。

テンプレート

▼ 反映

使用可能: {MYCALL} {HISCALL} {RSTS} {RSTR} {SENT} {RCVD}
{MYQTH} {MYJCCJCG} {MYTXT}

自動ログ: 送信文に TU 73 / TU73 がある場合、正常送信終了後に追加します。

キー	名称	送信内容
1 F1	CQ	CQ TEST {MYCALL} {MYCALL} K
2 F2	CALL	{MYCALL} {MYCALL} {MYCALL}
3 F3	EXCHANGE	{HISCALL} 599 {SENT} {SENT} DE {MYCALL} K
4 F4	TU 73	R TU 73 DE {MYCALL}
5 F5	AGN	AGN DE {MYCALL} K
6 F6	NR?	{HISCALL} NR NR?
7 F7	TEST	RRR DE {MYCALL} TEST
8 F8	KKK	KKK
9 F9	FREE	

コンテストナンバーは「RST+年齢（または01）」です。
SENTにコンテスト開始時の年齢、または「01」を入力し、「固定」をONにしてください。
マルチオペで年齢を送る場合は、オペレータの平均年齢です。00・99も使用できます。
RST（599）はマクロで付くため、SENTへの入力不要です。

➡

 SENT ☒ 固定

保存 キャンセル

テンプレートの反映とSENT欄

反映を確認メイン画面右側の「TX
MACRO」にコンテスト用の送信文が表示されていることを確認してください。

STEP 08 受信の準備をする

STEP 7で接続が切れている場合は、画面の「接続」を押して無線機につなぎ直します。ここから先は実際の信号を受信する手順です。事前準備だけなら、画面上部の「コントロール」が開けることを確認すれば、ひとまず完了です。

STEP 09 RTTY信号を受信する

「コントロール」と「クロススコープ」を開きます。PCの性能に余裕があれば「サブデコ」も開きます。RTTY信号を探し、スペクトラムの2つの山の頂点が、それぞれMARKとSPACEの線に重なるように合わせます。山の間隔と2本の線の幅が合わないときは「幅RESET」を試します。受信音に違和感があれば「位置RESET」も試し、合わせ直します。



表示感度・幅RESET・位置RESET

山が低く見えにくいとき受信音量を上げる前に「表示感度」を調整します。山の頂点が黄土色の線に届く程度を目安にしてください。表示感度は画面の見え方を変える設定です。

クロススコープの線が十字に近づくよう周波数を調整します。信号を捉えられると、画面上部の「C同調」にもずれの値が表示されます。

STEP 10 相手局のコールサインを入力する

CQを受信したら、デコード欄の「[RX] CQ…」と表示された行にあるコールサインをクリックします。CALL欄に相手のコールサインが入ります。「自動取得」が有効なら、すでに入力されていることもあります。呼び出す前に、初めての局か交信済みの局かも確認しましょう。

23:17:15 RX | S

現在のQSO — 初めての局です

CALL ☒ 自動取得 ☒ CQのみ	RST-S	RST-R
JX1XXX	599	599

☐ TU 73送りで自動ログ追加 ☒ 周波数変更でクリア

最新のQSO

CALL欄と交信済み表示

周波数を変えたとき「周波数変更でクリア」が有効なら、周波数をある程度動かすとCALL欄が消去されます。

STEP 11 相手局を呼び、交信を記録する

1. F2を押し、自分のコールサインを送ります。
2. 相手が返したコンテストナンバーをRCVD欄で確認します。自動入力に混信などで違っていれば手で修正します。
3. F3を押し、こちらのコンテストナンバーを送ります。
4. 相手から「TU 73」などを受信し、交信が成立したらRCVD欄をもう一度確認して「ログに追加」を押します。

自動記録もできますが、呼びかける側では相手の終了文がさまざまなので、最初は手動で記録するのがおすすめです。

SENT ☒ 固定	RCVD
01	

2026-09-29 23:20 JST ☐ 日時手動

SENT・RCVD欄とログに追加

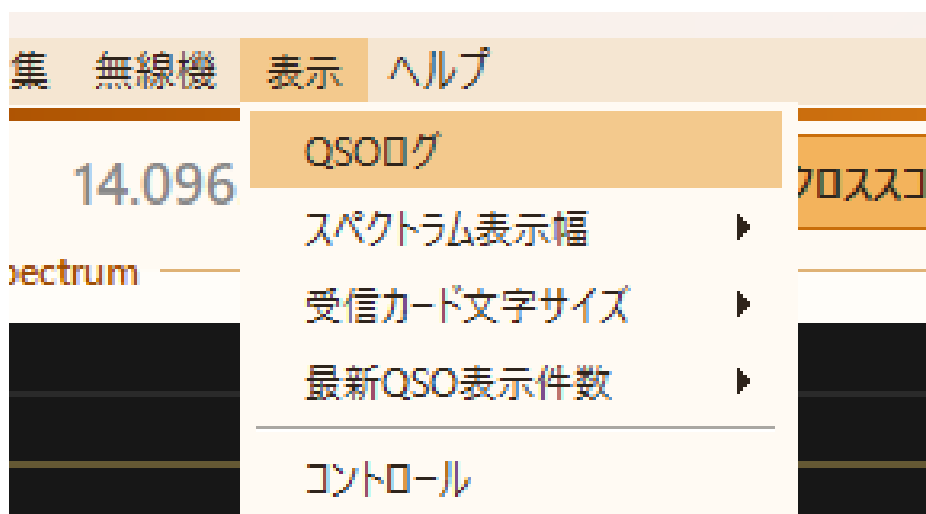
交信の終わり方は局によって異なりますこちらから「TU 73」を送ると丁寧ですが、相手局がすぐ次のCQを始めることもあります。その場合はログを記録し、心の中でお礼をして次の局を探しましょう。

STEP 12 自分からCQを出してみる

空いている周波数を確認し、F1のCQマクロを送ります。応答があれば、相手のコールサインとコンテストナンバーを確認しながら進めます。CQを繰り返し送るAutoCQも利用できます。慣れてきたら活用してみてください。

STEP 13 記録したQSOを修正する

運用中、直近の交信に入力ミスがあれば、メイン画面の「最新のQSO」の対象をダブルクリックして編集します。それより前の記録は「表示」→「QSOログ」から探します。

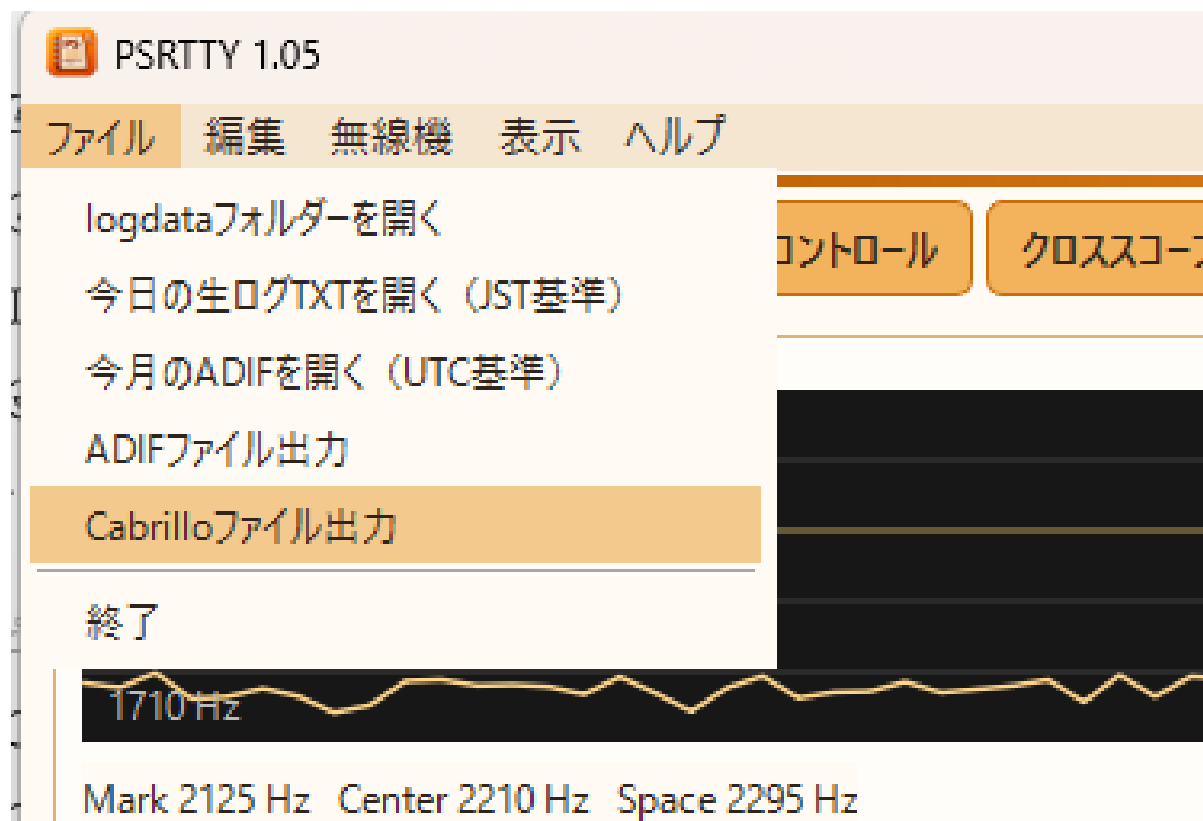


表示メニューのQSOログ

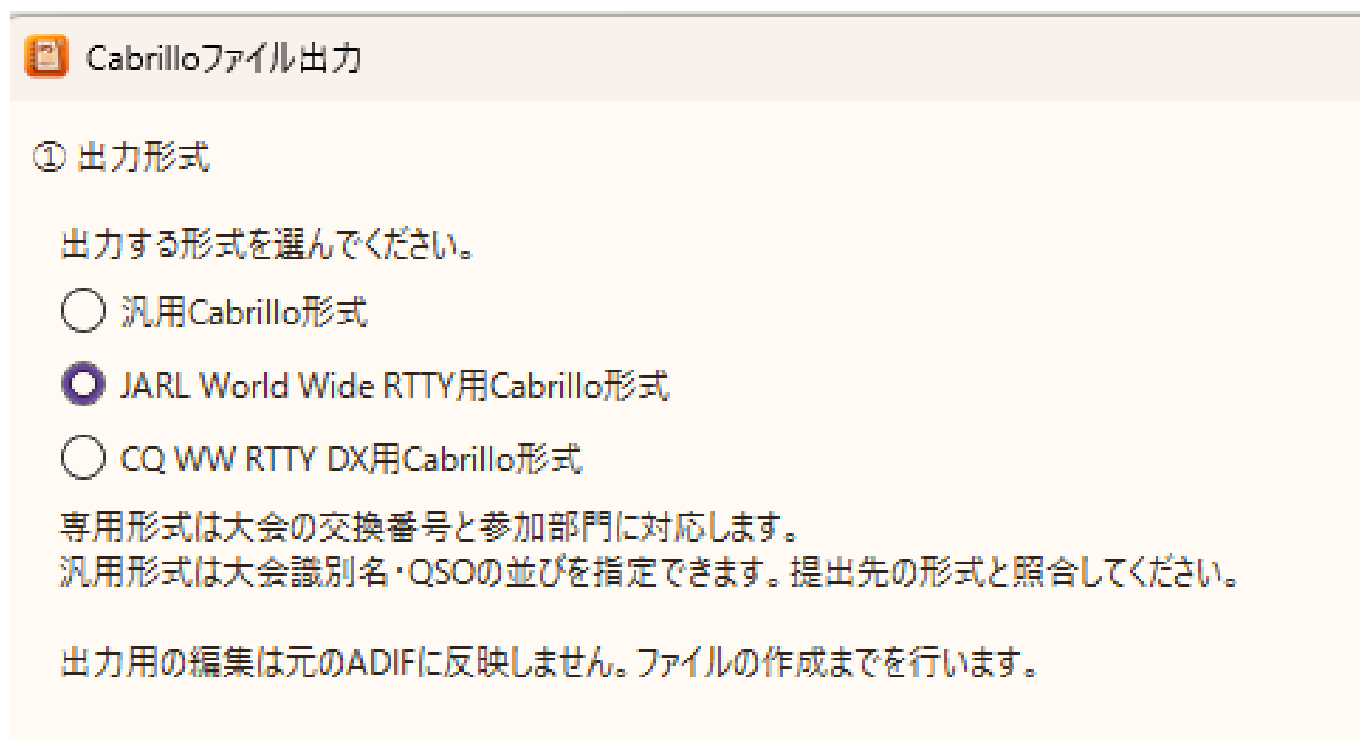
最新のQSOの表示件数メイン画面に表示する件数は「表示」→「最新QSO表示件数」から変更できます。

STEP 14 提出用ファイルの形式を選ぶ

コンテストが終わったら、「ファイル」→「Cabrilloファイル出力」を選びます。出力形式は「JARL World Wide RTTY用Cabrillo形式」を選んで進めます。



ファイルメニューのCabrilloファイル出力



JARL World Wide RTTY用Cabrillo形式の選択

STEP 15 提出する交信と運用情報を確認する

大会期間と自局コールサインを確認して「抽出」を押します。表示された交信から提出対象を選び、「次へ」を押します。2026年の開催期間は10月17日9:00から19日9:00（JST）です。画面の自動入力値と照合してください。

Cabrilloファイル出力

対象QSOの選択・出力用編集

開催年 2026年の大会期間を入力 日時表示

大会期間は現在の開催ルールから自動計算しています。公式日程を確認し、異なる場合は開始・終了を修正してください。

開始 終了（含む）

自局CALL抽出

日時のないQSO・自局CALL空欄も確認用に表示します。修正は出力用コピーだけに適用します。

出力	日時（JST）	自局CALL	相手CALL	MHz	RST-S	RST-R	SENT	RCVD	TX番号	X-QSO	状態
1 ☒	2026-09-26 09:34	J41HST	HLACEL	14.091321	599	599	25	25		☐	
2 ☒	2026-09-26 11:01	J41HST	EX7CQ	21.100643	599	599	25	17		☐	
3 ☒	2026-09-26 11:47	J41HST	K247M	21.055364	599	599	25	31		☐	
4 ☒	2026-09-26 11:57	J41HST	BY0P	21.14054	599	599	25	24		☐	
5 ☒	2026-09-26 12:20	J41HST	AH2R	28.05533	599	599	25	27		☐	

選択 5件 / 表示 5件 / 読込 5件

TX番号：MULTI-ONE/TWOで使用。X-QSO：採点対象外として出力。SENT/RCVD例：CQ WW725「05 MA」、JARL「01」。

提出するQSOの選択画面（画面内の期間は操作例）

続く画面では案内に沿って運用情報を入力します。得点計算では、JD1局の所在地など、コールサインだけでは判定できない場合があります。計算結果とマルチプレイヤーを確認してください。

画像の期間は操作例です実際の大会期間と提出期限はJARL公式規約で確認してください。

STEP 16 ファイルを保存して提出する

残りの必要事項を入力し、Cabrilloファイルを保存します。テキスト形式なので、住所などの記載事項や得点計算の結果をテキストエディターで確認・修正できます。交信日時、相手局、交換したナンバーなどの交信記録はコンテスト終了後に書き換えしないでください。

JARLのログ提出ページを開く [➤](#)

提出ページで「JARL World Wide RTTY CONTEST」を選び、ファイルを送信します。送信後は受付結果を確認してください。2026年の締切は10月28日24:00（UTC）です。